## XP-002369819

JP 43025506

```
ANSWER 1 OF 1 CAPLUS COPYRIGHT 2006 ACS on STN
L27
     1969:58226 CAPLUS
ÀΝ
     70:58226
DN
     Riboflavine esters
TI
     Yamabe, Shigeru; Terayama, Hiroshi
IN
     Sumitomo Chemical Co., Ltd.
PA
     Jpn. Tokkyo Koho, 4 pp.
so
     CODEN: JAXXAD
DT
     Patent
LÀ
     Japanese
FAN.CNT 1
                                                                     DATE
                                             APPLICATION NO.
                                 DATE
     PATENT NO.
                          KIND
                                                                     19650916 <--
PΙ
     JP 43025506
                          B4
                                 19681104
                                             JP
     Lauric chloride (21.8 g.) and 15 ml. aq. soln. contg. 7.3 g. KOH are
AB
     gradually dropped into an ice-cooled and stirring suspension of 3.76 g.
     riboflavine in H2O during 30-60 min., the mixt. stirred an addnl. 30 min.,
      centrifuged, the resulting mass extd. with such nonpolar solvents as CHCl3
      or PhMe, the ext. evapd., the residue dissolved in petroleum ether
      (petroleum benzine), the soln. chromatographed on SiO2, and eluted with
      petroleum ether-Et20 to give riboflavine trilaurate, m. 127.5-44.5.degree.
      Similarly prepd. is riboflavine triisovalerate.
      riboflavine esters; vitamin B2; vitamin G; isoalloxazines
ST
                            ***27194-68-9P***
IT
      ***27194-67-8P***
      RL: SPN (Synthetic preparation); PREP (Preparation)
         (prepn. of)
      ***27194-67-8P***
                            ***27194-68-9P***
 IT
      RL: SPN (Synthetic preparation); PREP (Preparation)
         (prepn. of)
      27194-67-8 CAPLUS
 RN
      Riboflavine, trilaurate (ester) (8CI) (CA INDEX NAME)
 CN
      CM
           1
```

CRN 143-07-7

C12 H24 O2 CMF

HO2C - (CH2) 10 - Me

CM 2

CRN 83-88-5

CMF C17 H20 N4 O6

Absolute stereochemistry.

18.01.2006 15:47:59

RN 27194-68-9 CAPLUS

CN Riboflavine, triisovalerate (ester) (8CI) (CA INDEX NAME)

CM 1

CRN 503-74-2 CMF C5 H10 O2

CM 2

CRN 83-88-5

CMF C17 H20 N4 O6

Absolute stereochemistry.

Page 3

18.01.2006 15:47:59

33 Carbohydrates Vol. 70, 1969

58231

1000 B

Page -421

was 'prepd. in 65% yield by reacting the Grignard reagent of tetra-Oacetyl-o-Delucopyranosyl chloride with MeSiCh. Associated and the control of the carbody of the molecular of the carbody of the carbody

glucose in IV must be attached to the o-nydroxyl.

V. K. Ahluwalia

58225p Constituents of chrysosplenium plants in Japan.

Structure of chrysosplenin. Shimizu, Mineo; Morita, Naokata
(Fac. Pharm., Univ. Toyama, Toyama, Japan). Chem. Pharm.

Bull. (Tokyo) 1968, 16(11), 2310-11 (Eng). The Chrysosplenium japonicum plant was extd. with MeOH to give a cryst.

material which was identified as 'chrysosplenin (I) from its ir
spectrum. Paper partition 'chromatog. 'revealed that I was
a mixt. of 2 components, 1 of which was identified as the chrysosplenoside-B, 5,4'-dihydroxy-3,6,7,3'-tetramethoxyflavone 4'monoglucoside. The 2nd component gave a D-glucose and aglycon on hydrolysis with HsSQ. The aglycon was identified
as the 5,3',4'-trihydroxy-3,6,7-trimethoxyflavone (II) and called
chrysosplenol-D, and the 2nd component in the I mixt. was the
3' or 4'-mono-D-glucoside of II which was called chrysosplenoFSJN

\$32261 Riboflavine esters. Yamabe, Shigeru; Terayagla, Histori (Sumitomo Chemical Cov. Ltd.) Japan 68 25 06 (Confeder 623), 04 Nov 1968 Appl. 16 Sep 1965; 4 pp. Lauric chloride (21.8 g.) and 15 ml. aq. soin. contg. 7.3 g. KOH are

gradually dropped into an ice-cooled and stirring suspension of 3.76 g riboflavine in H<sub>2</sub>O during 30–60 min., the mixt. stirred an addnl. 30 min., centrifuged, the resulting mass extd. with such nonpolar solvents as CHCl<sub>3</sub> or PhMe, the ext. evapd., the residue dissolved in petroleum ether (petroleum benzine), the soln. chromatographed on SiO<sub>2</sub> and eluted with petroleum ether—Et<sub>2</sub>O<sub>2</sub> to give riboflavine trilaurate. m. 127.5-44.5° Similarly prepd. is riboflavine trilaurate. Hiroshi Kataoka Smillarly prepd. is riboflavine trilaurate. In 127.5 d. Smillarly prepd. is riboflavine trilaurate. In 127.5 d. Smillarly prepd. is riboflavine trilaurate. In 127.5 d.

to give 56% II. II (8.5 g.) was mixed with 20 g. 85% m-chloroperbenzoic acid in 250 ml. CHCl, and epoxidized ~65 hrs. under refrigeration to give III contg. 8.23 meq. epoxy/g. sample. and frequency for the control of the control of

18 E 623 (30 B 222)

特許出願公告 昭43—25506 公告昭43,11.4 (全4頁)

リポフラビン脂肪酸オリゴエステルの製法

**脊 顧 昭 40-56913** 

出 题 日 昭 40.9.16

晃 明 者 此辺茂

豊中市曾根東町1の36

同 专山宏

東京都世田谷区玉川瀬田町 155

出 曆 人 住友化学工業株式会社

大阪市東区北浜5の15

代 表 者 長谷川周重

代 理 人 弁理士 祝浦雲男

#### 図面の簡単な説明

第1図個はリボフラビンの赤外線吸収スペクトルを変わし、第1図的は実施例1のリボフラビンラウリン酸トリエステルの赤外線吸収スペクトルセ表わす。第2図は実施例2のリボフラビンイソ世軍職トリエステルの赤外線吸収スペクトルを集わしたものである。

#### 発用の詳細な説明

本発明は水溶性のビタミンB。すなわちりポフラピンのリビチル益に1万至3個の脂肪酸をエステル結合により遮入し、それな脂溶性の高いビタミン化変化させる製法に関する。このエステルはバター、オリーブ値等の池脂に溶かしたり、あるいは日米にコーテイングしたりして強化食品にでき、また化粧用クリームに添加して皮膚からの浸透性を高める等の特色を有する。かかる目的をもつてエステル結合される脂肪酸は炭素原子数3以上の脂肪酸で、側鎖を有する脂肪酸も含まれ、例えば酪酸、イソ古草酸、ラウリン酸、ステブリン酸、オレン酸、バルミチン酸等があげられる。

本製法は相当する脂肪酸のハロゲン化物、特に クロライドをリポフラビン1モルに対して3モル 以下の割合で結合するように使用すること、アル カリ水溶液を反応移態とすること、および生成し たエステルをカラムクロマトグラフイーまたは違 心分離法によつて分離精製することを特徴とする。 アルカリ性水溶液を使用する有利な点は低来法に 比し反応条件を適当に選定することによつて、モ ノエステル・ジエステル・トリエステルの中の任 着の分面が高い収率(80万至90%)で支られるにある。これらのオリゴエステルはテトラエステルに比して、充分に親脂性であると共にリポフラビン含量の高いこと、リバーゼで加水分解され活性リポフラビンを生じ易いこと等から実用上特にすぐれている。

すたわち具体的には、リボッラビンラウリン酸モノエステル、ジエステル、トリエステルを基質とし、酵素として、パンクレアスリパーゼを用い、pH 7.0のリン酸塩系級貨液を用いて、3.7℃で9.0分間加水分解反応を行ったところ下表のようた結果が得られ、そのすぐれた実用性が立証された。

基	質	加水分解速度	ビタミンB <sub>2</sub> 栄 養効果(ラコト 発育)
リボフラ <sup>5</sup> ウリン酸 <sup>3</sup> ステル		4 5	+++
リポフラ! ウリン酸: テル		3 0	+++
リボフラ! ウリン酸 ステル		2 7	<del>+++</del>
			コントロール

### (ラットを2週間完全飼育)

なお、元素分析、可視部吸収スペクトル、赤 外線吸収スペクトル等を測定し、本発明生成物 が相当する脂肪酸のオリゴエステル中の一分面 であることを確認した。

次に実施例を示し本発明をさらに詳細に説明 する。

### 実施例 1

リポフラピンの粉末3.76 多(0.01モル) を適当量の水に懸弱させ、氷冷下でよく提祥しつつ、これに85% KOH(またはNaOH)73 タ(0.11モル)/15 W水およびラウリン駅 クロライト21.8 多(0.1モル)を築量 ずつゆつ くり滴下する。

30分万至60分かけて全部を滴下し、さらに 30分間攪拌をつづける。反応終了後、いつたん 識別または遠心分離して黄色固形物を集め、つい でクロロホルム、トルエン等の無極性溶媒で抽出 する。場合によつては、いつたん固形物を分離し ないで、直もに溶媒で抽出してもよい。

有機溶媒を重炭酸ナトリウム水、ついで水で分 渡コート中で掘り、よく洗つてから溶媒を減圧下 で留去すれば、他状または固形のリポフラビンラ ウリン酸エステルが得られる。収量は90%であ る。 とれをさらに精製するには、石楠エーデルかまたは石油ペンジンに落かして、シリカゲルカラムクロマトグラフィーを行い、石楠エーデル十エーテル(1:1の分量比)またはエーデルの分量を大きくした解媒で溶出する。溶媒を減圧下で望去すれば登黄色結晶を得る。

本品は室温で極めて安定であり、水に不溶、各種の有機路線および油脂によく溶けて資禄色のケイ光を示す。本品の隠点および元素分析値は無1 狭の通りである。元素分析値から本品はリポフラビン1分子に対してラウリン酸3分子を含むトリエステルであることがわかる。

	第 1	授			
fit. 合 物	融点	元 索 分 析 値 (%)			
化合物			o	н -	N
リポフラピン	288.5~	理論値	5 4.2 6	5.3 2	1 4.8 9
	292.50	突側値	5 4.5 8	5.2 1	1 4.7 5
リポフラピンラウリン酸	1 2 7.5~	理論値	6898	9.3 3	6.07
トリエステル	144.50	実列値	6 7.3 3	9.18	6.03

本品のオリーブ油中における可視部吸収スペクトルはリポフラビンの水溶液のものと相似するが、その吸収極大は440mmにあって、リポフラビンの値445mm より少しく短波長に位する。また本品の赤外観吸収スペクトル(KBr錠剤法)は第1図6mの通りである。第1図6mリポフラビンのスペクトルと比較して、いわゆる指紋領域の各吸収帯が優めて相似していることから、エヌテエ結合によってイソフロキサチン核の保存されていることがわかる。また(b)にのみ認められる3.5 μの吸収帯はパラフイン鏡によるものであり、脂肪酸が導入されていることを明示している。実施例 2

第2級又示す本品の元素分析値より、リポフラビン1分子に対してイン言草酸3分子が結合した トリエステルであることがわかる。

	無	2		
化合物		元 案	分析值	(%)
化合物		С	H	N
りがフラビンイソ吉草	理論値	6 1.1 5	7.0 1	8.9 2
酸トリエステル	尖趴值	5 9.8 1	7.15	7.9 1

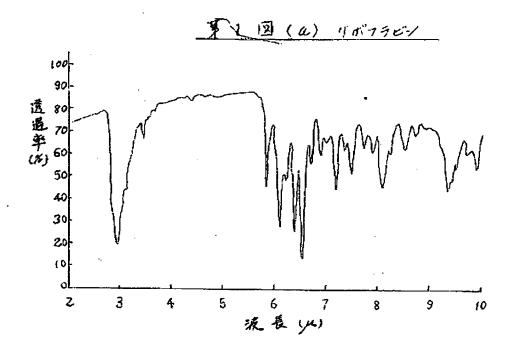
http://www.qphpnpJ.Q522210341648464886489000=20&N0400=image/gif... 2004-1-5

たお本品の赤外線吸収スペクトル (溶媒パラフ イン柏)を示せば第2図の通りである。

特許請求の範囲

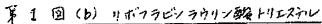
1 直鎖状または御鎖を有する炭素原子数3以上 の脂肪酸のハロゲン化物を、リボフラピンとアル

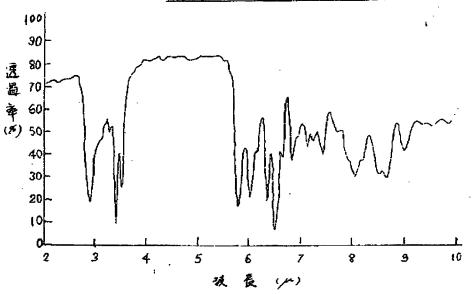
カリ性水溶液で反応させ、リポフラビンのリピチ ル基をモノエステル、ジエステルまたはトリエス テル化することを特徴とするリポフラビン脂肪酸



(4)

特公 昭43-25506





# 第2回 リポッラピンイソを尊酸トリエステルン

